

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立嘉穂総合高等学校 (大隈城山校)

自己評価					
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)	
学校運営方針	総合的で活力ある教育を、情報を基調とする家庭に関する学科において展開することにより、高度情報通信ネットワーク社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成する。また、勤労と責任を重んじ、社会の有意義な形成者となり得る資質を、地域と連携し育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
<p><成果></p> <p>1 生徒の学習到達度や各自の特性に応じて、個に応じた授業が展開できた。</p> <p>2 地域社会と連携し、多様なボランティア活動を行い、生徒の社会性を大いに高めることができた。</p> <p>3 個別の教育支援計画や個別の指導計画の定期的な見直しを行い、職員全体で内容を共有した。そのため生徒の課題の早期発見に努め、一人一人に寄り添った指導ができた。</p> <p><課題></p> <p>1 基本的生活習慣の確立による出席状況の改善と、ICTの有効活用による確かな学力の育成</p> <p>2 体験型を重視した低学年からの計画的キャリア教育の実施</p> <p>3 豊かで逞しい心を育むための発達支持的生徒指導 (SEL-8Cプログラム導入) と教育相談等の充実</p> <p>4 学習成果を生かした学校行事の充実と生徒会活動の活性化による生徒の自主性の育成</p> <p>5 地域の世代間交流、地域活性化に繋がるボランティア活動の推進</p>	(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康及び自己管理を支援する相談機能の充実 保護者との連絡と緊密な連携による出席状況の改善 学校生活全般及び生徒主体の集会・学校行事における規範意識育成 美化活動・ボランティア活動を通じた道徳性の涵養 			
	(2) 生徒の実態に応じた魅力ある授業の実践 (個に応じた授業、確かな学力の育成、ICT活用の充実)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性の把握と、個別の指導目標に応じた能力の伸張 観点別評価の充実による指導と評価の一体化を軸とした授業改善 ICTの効果的な活用による学び直しのサポートと主体的に学ぶ生徒の育成 生徒によるICT活用の推進と「分かる授業」を目指した職員研修の充実 			
	(3) 人権尊重の精神を基盤とした安心・安全な教育環境の構築 (いじめの撲滅)	<ul style="list-style-type: none"> 自他の人権や生命を尊重する心といじめを許さない雰囲気醸成 教育相談等の充実による生徒の情緒の安定と自己有用感向上 言語環境の整備及びコミュニケーション力を高める特別活動の実施 生徒の安全・安心を確保する危機管理体制の確立と学校安全の推進 			
	(4) 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動のユニバーサルデザイン化の推進 合理的配慮に基づいた生徒一人一人が学びやすい環境づくり 特別支援の視点に立った学校環境の整備と充実 外部機関との連携による卒業後まで見通した計画的支援 			
	(5) 生徒一人一人のキャリア形成と第一希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 低学年からの計画的指導による生徒のキャリアプランニング能力の向上 インターンシップ等体験型プログラムによる健全な職業観・勤労意欲の育成 卒業までに生徒に身に付けさせるべき能力・技能習得の計画的実践 奨学金等の情報提供及び人権感覚に基づいた適切な就学・就職支援 			
	(6) 地域との連携及び広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域に向けた積極的な情報発信 地域の異世代との交流による生活情報科の学習成果の地域への還元 地域活性化に繋がる学校全体でのボランティア活動の促進 嘉麻市高校生議会への参加等、地域社会に貢献できる人材の育成 			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)		次年度の主な課題
教務部	基礎学力の定着と向上を図る。	学び直しの学習を取り入れ、義務教育段階の学習内容の定着を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度途中で進路変更が極めて少なかったことは、生徒が落ち着いて学校生活を送ることができた大きな成果である。次年度も毎時間の授業を生徒が落ち着いて取り組み、達成感を感じることができるような授業改善を進めていきたい。 ICT機器もそろい、効果的な授業の実施ができるようになってきている。生徒は熱心に授業を受け、考査への取り組み状況もよい。基礎学力が定着したものとなるようさらに研修を深めたい。 新学習指導要領の実施2年目となり、観点別評価も充実してきた。次年度は3年目となり全学年が対象となるため、さらに授業と評価についての研修を深め職員間での意識の統一を図りたい。
	魅力ある授業の構築を図る。	職員相互に授業参観を行い、タブレットや電子黒板等のICT機器の効果的な活用に努める。	A		
	個の実態に応じた授業内容の構築を図る。	合理的配慮に基づいた生徒の実態に合わせた教科指導を行う。	A		
進路指導部	社会人として必要な職業観の育成を図る。	インターンシップやボランティアを実施することで職業意識の向上を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年生になってから進学から就職へと大きな進路変更をした生徒の進路決定が少し遅れたものの、その後よく取り組み、希望する進路実現を全員が果たした。低学年のうちから保護者を含めて生徒の進路目標を明確にする取り組みが必要である。 進路について早くから目標を決めて取り組んだ生徒から第一志望の進路先を決定することができた。次年度も進路意識を高める指導を学期毎に行い、生徒の進路目標をはっきりとさせ、希望進路の実現に向けて取り組みを実施したい。
	効果的なキャリア教育を実施する。	外部機関との連携を図り、進学ガイダンスや工場見学等を学期毎に実施する。	A		
	それぞれの進路希望に合わせた進路実現を目指す。	奨学金等の情報提供や生徒の進路希望を十分に把握するため、進路面談を充実させる。	キャリアノートの活用を充実させ、毎日の生活や学習を振り返ることで、自らの成長を促す。	B	
		担任、特別支援コーディネーター、就職指導員と連携を深め生徒の適性に応じた進路選択を行う。	奨学金等の情報提供や生徒の進路希望を十分に把握するため、進路面談を充実させる。	A	

学校関係者評価	
評価 (総合)	自己評価は
A	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
	項目ごとの評価
A	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を更に図ってほしい。 ICT機器をより効果的に活用できるように、ソフトの充実を計画的に進めてほしい。
A	<p>インターンシップの実施は生徒に好影響を与えているようである。</p> <p>生徒の最終進路を出身中学校へ情報提供し、中学校での取り組みに反映させるような流れがあると良い。</p>

生徒指導部	生徒が伸び伸びと安心して学校生活を送れる学校づくりを目指す。	個人面談や教育相談、家庭訪問や三者面談等を通して生徒理解に努める。	A	A	A	・個人面談、教育相談、家庭訪問、三者面談を実施し、安全で安心した学校生活を送れた。さらに、アンケートを実施しさらに安全で安心した学校にできるようにする。 ・生徒会活動では、昨年できなかった全校朝礼の進行や清掃活動を通じて生徒会活動が活発に活動できた。 ・地域のお祭り、ボランティア活動の参加により生徒と地域の方々とのふれあいにより、地域との交流が活発にできた。
		学校生活アンケート・いじめアンケート調査・相談ポスト・校内巡視等によって、生徒の抱える悩みを早期に対応する。	A			
	生徒会活動を通して自主的・計画的に行動できる資質を養いリーダーを育成する。	全校朝礼の司会・運営、月1回の清掃活動を実施して、学校や地域への帰属意識を高める。 行事ごとに生徒からのアイデアを可能なかぎり反映させ、学校行事への参加意識を高める。	A B	A		
	地域社会と連携してボランティア活動を推進し、地域の活性化に寄与する。	一夜城祭り・千手とうろう祭り・Ilove遠賀川清掃活動等に積極的に参加する。 嘉麻市が主催するボランティア活動への参加を奨励し、ボランティアマインドを育成する。	A A	A		
保健部	生徒が心身共に健康的な学校生活を送れるようにサポートする。	「命の大切さ」をテーマに講演会を計画・実施し、自他の人権尊重の精神を育成する。 毎朝の健康観察を実施し、心身の両面から生徒の状況把握と問題解決に向けての支援をする。	A A	A	A	・毎朝の健康観察シートの提出により、心身体共に健康で安全に学校生活を送れるようだった。次年度も実施したい。 ・SC・SSW・通級の先生方と支援の必要な生徒達の様子を観察し、計画的また、有効的な支援が実施できた。 ・個別の支援計画、個別の教育支援計画を支援が必要な生徒達の為にたてて、サポート・支援ができた。次年度は、心の健康相談・教育相談の充実を図り、生徒を支援したい。
	教育相談を充実させ、支援を必要とする生徒に適切な対応を行う。	心の健康相談・教育相談を定期的に行い、情報の共有に努め、対応を協議し、必要な支援をする。 生徒情報交換会およびいじめ防止対策委員会との相互連携を図り有効な支援をする。	B A			
	特性ある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	SC・SSW等の関係機関と連携をとりながら、個性や特性にあわせた支援を考え活用する。 サポートヒントシート等を活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を参考に生徒支援をする。	A A	A		
研修部	校内職員研修を実施し様々な教育活動の局面において生徒への支援体制を強化する。	生徒の適性検査分析、特性のある生徒への対処法等の職員研修を企画・実施する。 ICT機器を活用した生徒主体の授業を構築するための職員研修を企画・実施する。	A A	A	A	・校内職員研修では生徒理解という観点から、生徒の適性検査分析結果報告及び本校のSC、SSWを招聘しての事例紹介の研修会を実施した。また危機管理の観点から、嘉麻警察署の職員の方をお招きして、「不審者対応防犯講習会」を実施した。 ・次年度は、福岡県教育委員から配付予定の「人権教育指導者用手引書」を活用して、個別の人権課題に関する学習内容を体系化するための職員研修会を実施する予定である。 ・防災教育では今年度は1時間を設定しDVDを視聴した後生徒の判断に委ねる避難訓練を実施した。 ・その他にも、生徒指導、進路指導、特別支援教育に関する研修会を外部講師を招聘して実施したい。
	校外研修に積極的に参加し教員としての資質及び技能の向上を図る。	特別支援教育の校外研修に参加し、専門家の講義を聴講することにより教員の対応力・教育力を養成する。 生徒情報交換会において支援を要する生徒の情報交換を行い、具体的な支援対策について教員間の共通理解を図る。	B A			
	生徒対象の人権学習会を各学年年間3回実施し生徒の人権意識の高揚を図る。	人権学習会の事前学習会を各学年実施し、生徒の実態に応じた学習会の在り方を模索しつつ実施する。 生徒が積極的に学習会に参加できる雰囲気醸成し、生徒主体の学習会の構築を目指す。	A B	A		
1学年	基本的な生活習慣の確立を目指し、自身のスケジュールを管理することができる。	手帳を有効的に活用し、自分自身でスケジュールを計画して行動できる力を身に付けさせる。 欠席・遅刻等への早期対応に向け、家庭との連携を密に図り、情報の共有を行う。	B A	A	A	・教員があまり決め過ぎずに、ある程度決定権を生徒に与える仕掛けを適宜取り入れた。生徒自らが考え、行動する機会が増えたこともあり、自主性やクラスへの帰属感が高まったように感じる。 ・進路に関しての意識は個人により差があるが、次年度はインターンシップもあるため一学期から意識作りをしていきたい。
	早い段階から進路目標を持たせ、社会に適應できる脂質・能力の育成を図る。	キャリア教育を通して勤労意識の向上を図り、保護者と連携して進路実現を目指す。 授業規律の確立を図り、挨拶や敬語の使用等を励行させ、社会生活における規範の遵守を意識させる。	A A			
2学年	よりよい人間関係の育成や自己の社会性の向上を意識させる。	ルールやマナーを意識するとともに、他者への配慮等を考えた行動がとれるよう指導を行う。 生徒会や委員会活動、ボランティア活動に積極的に参加させ、リーダーシップや責任感、奉仕の精神を養うよう指導を行う。	B A	A	A	・中核学年として、生徒会会長をはじめとして生徒会三役の立候補や各委員を出すことができたが、今後各自が生徒会活動や学校行事等の中で、適切にリーダーシップを発揮して行けるよう指導・支援に努める。また、他のクラスメイトが生徒会活動や行事に積極的に活動できるよう指導・支援する。 ・最上級生に進むにあたり、責任ある言動が取れるように指導・助言に努める。
	基本的な生活習慣に基づいた自己管理能力の育成を行う。	インターンシップ等を通じて進路目標を意識させ、授業や学校を休まないように心懸ける気持ちの伸長を図る指導を行う。 周囲の状況等を考慮しながらアフターコロナにおける自らの行動を主体的に判断し行動することができるようにさせる。	A A			
3学年	自らの進路実現のために努力を惜しまず行動し、社会人としての資質の向上と基礎力の定着を図る。	進路に関する情報を常に教員間で共有し、職場見学・履歴書指導・面接指導等を計画的に行う。 福祉的就労を希望する生徒に対しては各関係機関と連携を図り、実習などのアセスメントをもとに進路指導を行う。	A A	A	A	・進路指導に関しては夏休みを利用して面接試験原稿作成、面接練習、履歴書下書き、応募前職場見学を計画的に実施し進路実現に繋げることができた。 ・年度当初に設定した「就職・進学問わず2学期までに卒業後の進路決定」の目標をほぼ達成できた。 ・1年間を通してボランティア活動や学校行事は大いに盛り上がり成功を収めた。3年生はそれらの行事に積極的に関わり1・2年生を牽引するという責務を果たし、学校の活性化に貢献した。
	学校や地域のために最高学年としてリーダーシップを発揮し全校生徒を牽引する力量を養う。	学校行事やボランティア活動においてリーダーシップを発揮しつつ率先して行動し下級生の模範となる生徒を育成する。 学校行事やボランティア活動を通して、仲間と協調して目標を達成する実践力を養う。	A A			

A	生徒に目がよく行き届いている。SNS等によるトラブルが増加している状況がどの学校でも課題となっている、保護者との連携の手立てはどのようになっているのか。地域社会と連携し。多様なボランティア活動を行っている。今後も継続し、生徒の社会性を高めてほしい。
A	いのちの大切さをしっかり考えさせてほしい。SOSの出し方や性教育の重要性についても指導してほしい。個性豊かな子どもへの対応が丁寧になされている。個別の支援計画や指導計画など定期的な見直しが行われている。生徒一人一人に寄り添った指導を継続してほしい。
A	人権意識の向上を図ってほしい。業務の多忙化で研修時間の確保が難しくなっているのではないかなと思う。先生方の健康面も心配である。
A	中学校との情報連携を密にしてほしい。生徒自らが考えて行動することは社会に出て役立つ、今後もその確立に努めてほしい。
A	進路に悩む時機での支援を今後もしっかりと行っていただきたい。行動力や積極性を持つ生徒の育成、指導に期待する。
A	社会的に自立していくための体験活動はとても大切である。進路選択の幅が広がる取り組みを充実させてほしい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

ICT機器をより効果的に活用できるように、ソフトの充実を計画的に進める。
生徒主体で学校行事を運営し、生徒会活動を活性化させ生徒の自主性・主体性の育成する。
地域との交流を通して、生徒の社会性を高める体験活動をより一層推進する。
計画的にキャリア教育を推進し、進路選択の幅を広げる取り組みを充実させる。

評価項目以外のものに関する意見

文化祭を見学して、生徒の日常の頑張りや様子がよく分かった。
笑顔で挨拶してくれる。
生徒個人で差があり難しいと思うが、入学者全員で卒業する魅力ある学校であってほしい。